

母の日・父の日

初瀬基樹

「母の日の集い」「父の日の集い」へのご参加ありがとうございました。近年は、ひとり親のご家庭もめずらしいことではなくなり、家庭における父親の役割とか母親の役割、そもそも男だから女だからという性差についてさえ、とやかく言う時代ではなくなってきました。そんな時代の流れもあって、園によってはこうした行事を取りやめたり、「家庭の日」としてまとめて行なったりするところもあるようです。わが園においても、そうした意見が出ないわけではないのですが、私としては今のところ、父の日、母の日として、別々に残していきたい行事だと思っています。もちろん、その日だけが大事なのではなく、年間を通して考えていってほしいことではあるのですが・・・。

ひとつには、子どもたちに「命の繋がり」みたいなものを感じてもらう機会にしたいと思っています。

自分がこの世に存在するのは、お父さんとお母さんの愛があったからです。たとえ、今はそばにいないという状況であったとしても、自分がこの世に誕生するためには、生物学的な父親と母親が存在したはずであり、命と命が出会って、新たな命が誕生するという生命の神秘ともいえるべき、命の繋がりによって、自分が誕生したのであり、そのことによって、この世界が成り立っているということです。さらに、自分のお父さんとお母さんにもそれぞれ、お父さん（おじいちゃん）とお母さん（おばあちゃん）がいて、そのおじいちゃんとおばあちゃんにも、またそれぞれお父さん（ひいおじいちゃん）とお母さん（ひいおばあちゃん）がいて、さらに・・・と果てしなく繋がっていること、そして、いずれは自分も大きくなって、お父さんか、お母さんになるときがあるんだということを、なんとなくでも感じる機会になっていったらと思うのです。

また、この世に生まれてからも、実際に手をかけてお世話をしてくれる人、直接ではなくても自分が生きていくための生活を支えてくれる人、自分の誕生や成長を喜んでくれる人、自分のことを愛おしく思ってくれる人など、そうした人たちの存在に目を向ける機会にしたいのです。そうした人たちがいることに気付くことで、自分の生きる力の糧となっていくはずですし、おのずと感謝の気持ちも芽生えてくるかもしれません。たとえ、今は一緒に暮らしていなかったとしても、血のつながりがなかったとしても、自分の家族について、特にお父さんやお母さんについて別々に考えてみる機会にしてほしいと思うのです。昔ほど、父の役割、母の役割をいう時代ではありませんし、実際に、父親だから母親だからとそうにふるまわなくてはならないということもありません。いろんなお父さんやお母さんがいるし、いない場合もある、いろんな家庭の形があるということを知り、それが、たとえどんな家庭であっても否定したり、されたりすることなく、当たり前のこととして受け入れていってほしい。そして、自分の家族について、誇りを持って生きていってほしいのです。そのためにもこうした行事を通して、幼いときから「いろんなお父さんがいるんだなあ」、「いろんなお母さんがいるんだなあ」、「お父さんやお母さんがいない家庭もあるんだなあ、いろんな家庭の形があるんだなあ」「うちはうちでいいんだ」ということに気付いていってほしいと思うのです。おさない子どもの方がいろんな価値観にとらわれずに済むので、余計なフィルターをかけずに世界を見ることができません。だからこそ、他者理解のハードルも低く、柔軟に多様性を受け入れていくことができると思うのです。「みんなと違うから」と排除してしまう世の中ではなく、それぞれに「いろんな違いがあって当たり前」、その違いを自然なこととして認め合うことのできる世の中にしていくことが大事なのではないでしょうか。

父の日の集いで子どもたちと歌った「お父さんの歌」の歌詞をご紹介します。

お父さんの歌

作詞・作曲 新沢としひこ

きみのお父さんは どんな人？ やさしいのかな？ こわいのかな？
きみのお父さんは どんな人？ ふざけるひと？ まじめなひと？
きみのお父さんは どんな人？ テレビは好き？ お酒は好き？
きみのお父さんは どんな人？ きみと似てる？ ぜんぜんちがう？

きみには きみの きみだけのお父さん たったひとりのお父さん
きみのこと きっと 大事にしている お父さんは お父さんの やりかたで

きみのお父さんは どんな人？ お日さま？ それとも 高い山？
きみのお父さんは どんな人？ そよぐ風？ それとも 青空？

きみには きみの きみだけのお父さん 近くにいてもいなくても
きみのこと きっと 心配している お父さんは お父さんの まなざしで

きみのお父さんは どんな人？ どんな声で どんなにおい？
きみのお父さんは どんな人？ にぎった手は どんな ぬくもり？